



薬剤プレミックスキット

2015年度以降のマルチプロ 5800ターフスプレーヤ用

モデル番号 41622—シリアル番号 418500000 以上

取り付け要領

このキットは、集約的で高度な管理を受けている公園、ゴルフ場、スポーツフィールドその他の芝生において、薬剤を散布するにあたっての薬剤の混和を補助することを主たる目的として製造されております。このキットは、芝生に液剤を散布するための専用装置のための補助装置アタッチメントであり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。

この製品は、関連するEU規制に適合しています 詳細については、DOC シート規格適合証明書をご覧ください。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解してください。オペレータや周囲の人の人身事故や製品の損傷を防ぐ上で大切な情報が記載されています。製品の設計製造、特に安全性には常に最大の注意を払っておりますが、この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

弊社のウェブサイトwww.Toro.comで、製品の安全な取扱いや運転に関する講習資料、アクセサリ情報の閲覧、代理店についての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。

図 1 にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。

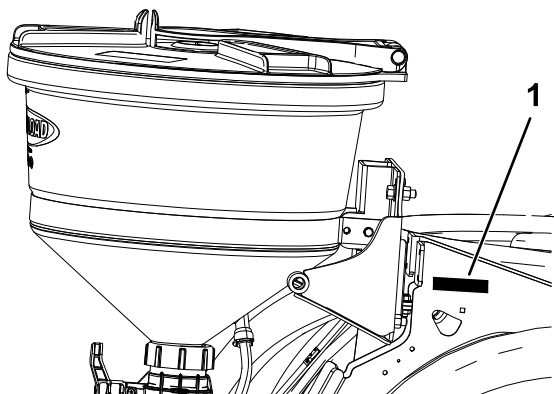


図 1

1. 銘板取り付け位置

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

安全について

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号 図 2 を使用しております。これらは死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから、必ずお守りください。



図 2

g000502

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。重要「重要」は製品の構造などについての注意点を、注はその他の注意点を表しています。



警告

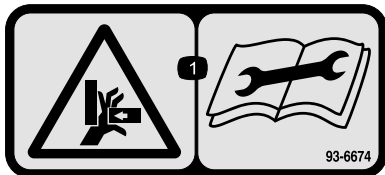
この散布装置で取り扱う農薬は人体や動植物、土壌などに危険を及ぼす可能性があるため取り扱いには十分注意すること。

- 自分自身の安全を守るために、農薬を取り扱う前に、容器に張ってあるラベルや安全データシートMSDSなど取り扱い上の注意をよく読んで理解し、薬剤メーカーの指示を守る。たとえば、保護マスクとめがねゴーグル、手袋など、薬剤との接触を防止し危険から身を守ることのできる適切な保護対策を講じる。
- 散布する薬剤は一種類とは限らないので、取り扱っているすべての薬剤に関して注意事項を必ず確認する。
- 上記安全確保に必要な情報が手に入らない場合には、この装置の運転を拒否すること
- 散布装置の取り扱いを開始するまえに、その装置を前回使用したあとに薬剤メーカーの指示に従って3回のすすぎ洗いや必要な中和処理が行われたかを確認すること。
- 十分な量の水と石鹼を身近に常備し、薬剤が皮膚に直接触れた場合には、直ちに洗い流すこと。

安全ラベルと指示ラベル



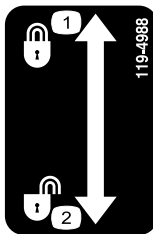
セーフティラベルや指示は危険な個所のオペレーターから見やすい部分に貼付してあります。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼り直してください。



93-6674

decal93-6674

1. 手を挟まれる危険 整備作業前にマニュアルを読むこと。



119-4988

decal119-4988

1. ロック
2. ロック解除

取り付け

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	—	キット取り付けの準備。
2	エダクタバルブのブラケット他のキットと共に既に取り付け済みの場合があります フランジヘッドボルト5/16 x 3/4" フランジロックナット5/16" ワッシャ5/16" エダクタバルブアセンブリ フランジナット1/4" 攪拌バイパスホースアセンブリ25 x 305mm 2023年モデル以前 圧力解放ホース 給液ホースアセンブリ	1 2 2 2 1 2 1 1 1	エダクタバルブとホースを取り付けます。
3	エダクタマウント フランジロックナット5/16" バックプレート・アセンブリ 右クレードルアーム 左クレードルアーム ブッシュ ピボットピン ジャムナット3/8" ハンドル ボルト3/8 x 1/4" 固定ねじ ヘアピン 平ワッシャ	1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	フレームを組み立てます。
4	スプリング	2	ラッチ関連部材を取り付けます。

手順	内容	数量	用途
5	ハンドル ソケットヘッドねじ #10-24 x 1/2" ラッチポスト スプリングクリップ ボルト#10-24 x 1/2" ロックナット(#10-24) エダクタ フランジヘッドボルト5/16 x 3/4" フランジロックナット5/16" ラッチハンドル ボルト3/8 x 1" フランジ付き鋸歯ナット3/8" T字フィッティングとドレンバルブ ガスケット フランジクランプ	1 2 1 1 2 2 1 2 2 1 4 4 1 1 1	エダクタを取り付ける。
6	バルクヘッドフィッティング シール ロックリング キャリッジボルト5/16" x 1" エダクタホースアセンブリ フランジロックナット5/16" リテーナ R クランプ5/16 インチ ガスケット フランジクランプ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	前ホースを取り付ける。
7	エダクタの給液ホース フランジクランプ ガスケット リテーナ	1 1 1 1	給液ホースを取り付ける。

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

1

キット取り付けの準備

必要なパーツはありません。

手順

1. スプレーヤを洗淨するオペレーターズマニュアルの「スプレーヤの洗淨」を参照。
2. 平らな場所に駐車し、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させてキーを抜き取るオペレーターズマニュアルを参照。

2

エダクタバルブと給液ホースを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	エダクタバルブのブラケット他のキットと共に既に取り付け済みの場合があります
2	フランジヘッドボルト5/16 x 3/4"
2	フランジロックナット5/16"
2	ワッシャ5/16"
1	エダクタバルブアセンブリ
2	フランジナット1/4"
1	攪拌バイパスホースアセンブリ25 x 305mm 2023年モデル以前
1	圧力解放ホース
1	給液ホースアセンブリ

ホースを取り外す

1. 車体の後部に行き、バルブ取り付けブラケットを探し出す。
2. 図3のように3本のホースを取り外す。

注 2024年モデル以降の機種では、攪拌バイパスホースを取り外さないでください。

注 ホースは廃棄してください。ホースクランプ、ガスケット、リテーナは **ブラケットとエダクタバルブアセンブリ** を取り付ける (ページ 6)、 **攪拌バイパスホース** を取り付ける (ページ 7)、 **圧力解放ホースアセンブリ** を取り付ける (ページ 7) で使用します。

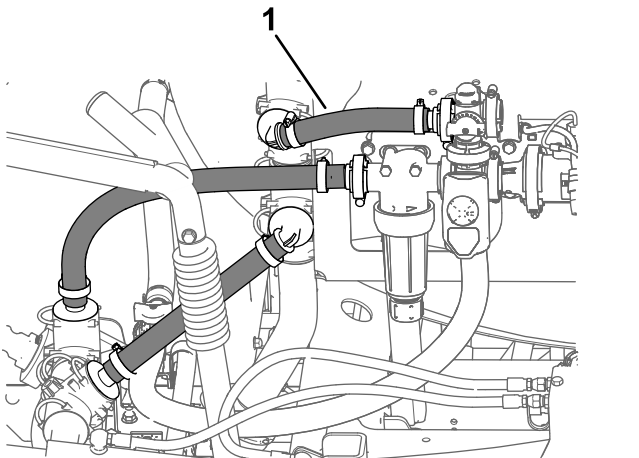


図 3

1. 2024年モデル以降は取り外さないでください

圧力解放バルブと上側T字フィッティングの位置を変更する

1. 圧力解放バルブをスプレーヤのポンプのT字フィッティングに固定しているリテーナを外して解放バルブリリーフバルブを取り外す 図4。

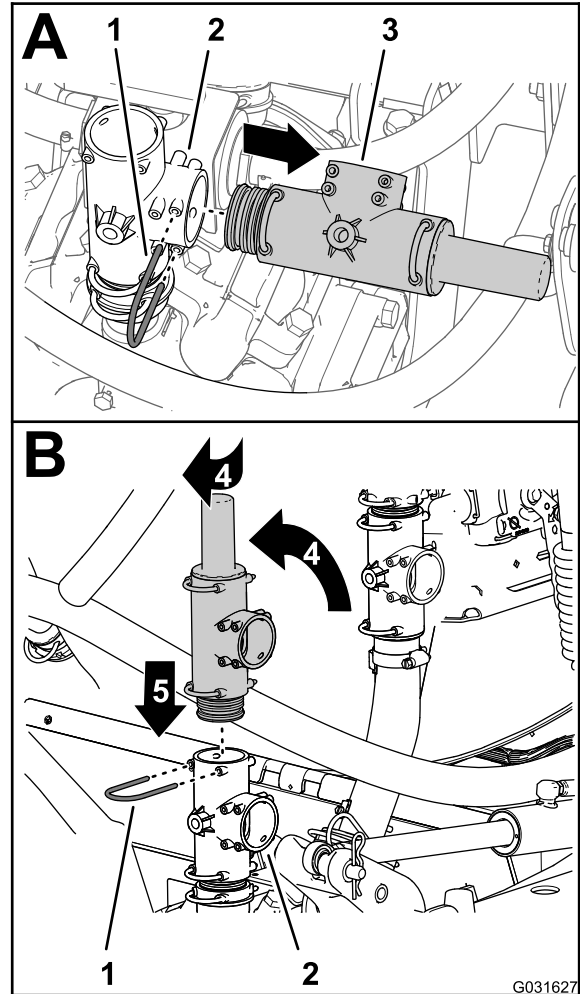


図 4

1. リテーナ
2. T字フィッティング
3. 圧力解放バルブ
4. 圧力解放バルブの向きを変更する
5. 下

2. 図4に示すように、圧力解放バルブを回して向きを変更する。

注 バルブの吐出口を後ろに向けてください。

3. 圧力解放バルブを、T字フィッティングの上部に取り付け、一番奥まで完全に押し込む 図4。
4. ステップ1で取り外したリテーナを使って、圧力解放バルブをT字フィッティングに固定する。
5. 上側T字フィッティングを右まわりに45°程度回転させる 図5。

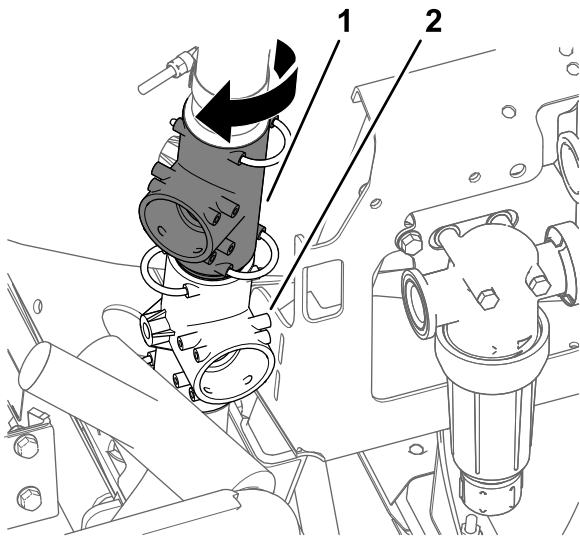


図 5

g204682

1. 上側字フィッティング 2. 下側T字フィッティング

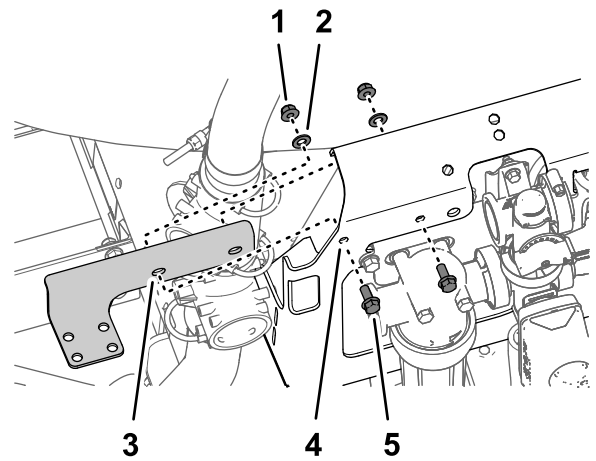


図 7

2024年モデル以降

g204705

1. フランジロックナット5/16 インチ 4. バルブサポート
 2. ワッシャ5/16 インチ 5. フランジヘッドボルト5/16 x 3/4 インチ
 3. バルブマウントブラケット

ブラケットとエダクタバルブアセンブリを取り付ける

1. バルブマウントブラケットをバルブサポートの正面に組み付ける図7フランジヘッドボルト5/16 x 3/4インチ4本、フランジロックナット5/16 インチ4枚、ワッシャ5/16インチ4個を使用する。

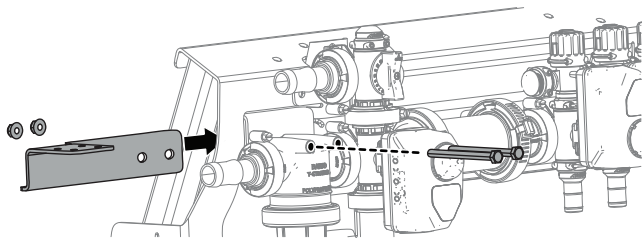


図 6

2023年モデル以前

g565120

2. エダクタバルブのリデュースアダプタのフランジを、圧力フィルタヘッドのフランジ図8に合わせ、ステップ2 ホースを取り外す(ページ5)で外したガスケットを間に挟む。

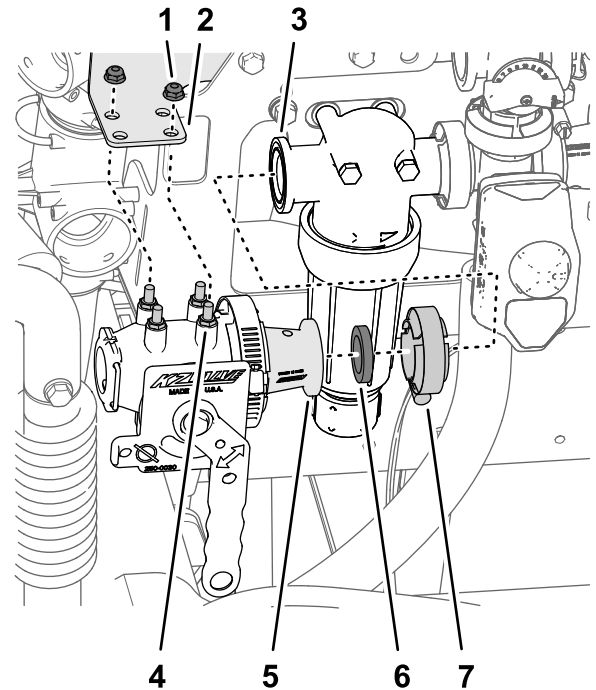


図 8

g204708

1. フランジロックナット1/4 インチ 5. 縮径アダプタ
 2. バルブマウントブラケット 6. ガスケット
 3. フランジ圧力フィルタのヘッド 7. フランジクランプ
 4. スタッドエダクタバルブ

3. 圧力フィルタヘッドのスタッドを、バルブマウントブラケットの穴に合わせる 図 8。
4. リデュースアダプタのフランジを、圧力フィルタヘッドのフランジ 図 8 に組み付け、ステップ 2 ホースを取り外す (ページ 5) で外したフランジクランプで固定する。
5. エダクタバルブをバルブマウント上部固定するフランジロックナット 1/4 インチ 2 個を使い、101767N・m 1.01.3kg.m = 90110in-lb にトルク締めする。
6. フランジクランプを手締めする。

攪拌バイパスホースを取り付ける

2023年モデル以前

1. 新しい攪拌バイパスホースアセンブリのバープ付き 90° フィッティングを、上側 T 字フィッティングの空いているポートに整列させて 90° フィッティングを T 字フィッティングの奥まで完全に入れる 図 9。

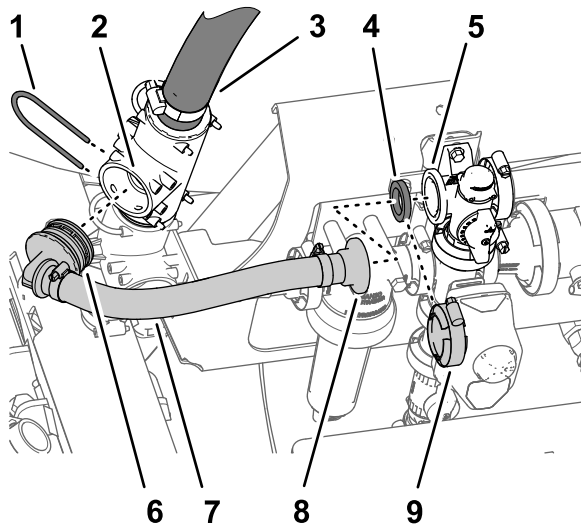


図 9

g206975

- | | |
|------------------|----------------------------------|
| 1. リテーナ | 6. 90度バープフィッティング |
| 2. ポート上側字フィッティング | 7. ホース 25 x 305mm 攪拌バイパスホースアセンブリ |
| 3. 上側給液ホース液剤タンク | 8. フランジ付きストレートフィッティング |
| 4. ガasket | 9. フランジクランプ |
| 5. フランジ攪拌バルブ | |

2. バープ付き 90° フィッティングを、リテーナ付き T 字フィッティング 図 9 ステップ 2 ホースを取り外す (ページ 5) で外したものに固定する。
3. 新しい攪拌バイパスホースアセンブリのフランジ付きストレートフィッティングとガスケットを、バイパスバルブのフランジに合わせる 図 9。
4. フランジクランプ 図 9 ステップ 2 ホースを取り外す (ページ 5) で外したものを使って、フランジ付きストレートフィッティングとガスケットを固定する。

圧力解放ホースアセンブリを取り付ける

1. 圧力解放ホースアセンブリの 90° フィッティングを、圧力解放バルブの下にある開いているポートに整列させ、90° フィッティングをポートの奥まで完全に入れる 図 10。

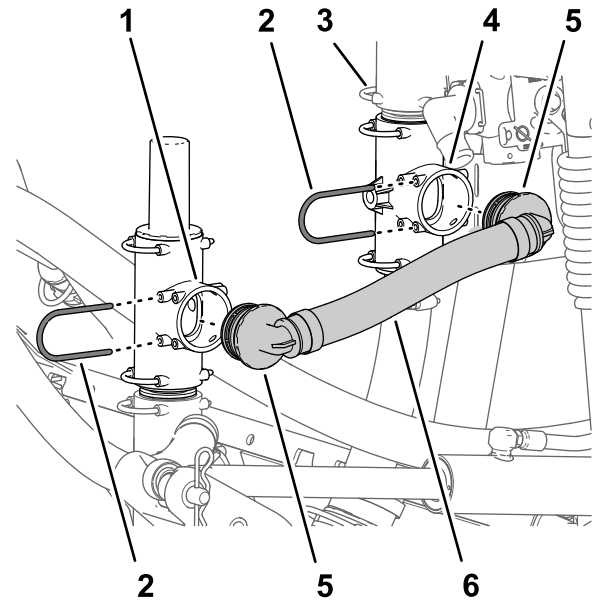


図 10

g206976

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 上側 T 字フィッティング圧力 | 4. 下側 T 字フィッティング解放バルブの下側 |
| 2. リテーナ | 5. 90° 鋸歯フィッティング (|
| 3. 上側字フィッティング | 6. 圧力解放ホース |
2. 90° リテーナ付き T 字フィッティング 図 10 ステップ 2 ホースを取り外す (ページ 5) で外したものを。
 3. 圧力解放ホースアセンブリのもう一方の 90° フィッティングを、下側 T 字フィッティングバルブマウントに固定の空いているポートに整列させ、90° フィッティングをポートの奥まで完全に入れる 図 10。
 4. 90° フィッティングを上側 T 字フィッティングに固定する 図 10 ステップ 2 ホースを取り外す (ページ 5) で外したリテーナを使用する。

給液ホースアセンブリを取り付ける

1. 圧力解放ホースアセンブリのもう一方の 90° フィッティングを、下側 T 字フィッティングバルブマウントに固定の空いているポートに整列させ、90° フィッティングをポートの奥まで完全に入れる 図 11。

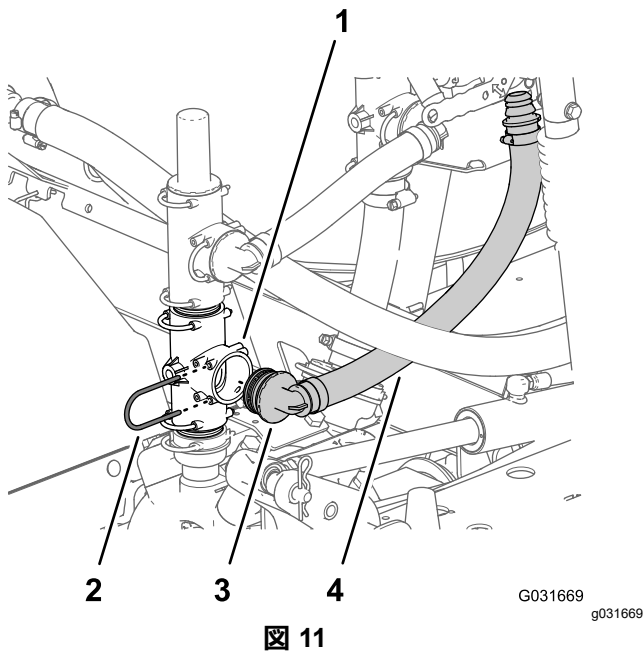


図 11

G031669 g031669

1. 下側T字フィッティング液剤ポンプ
2. リテーナ
3. 90°鋸歯フィッティング
4. 給液ホースアセンブリ

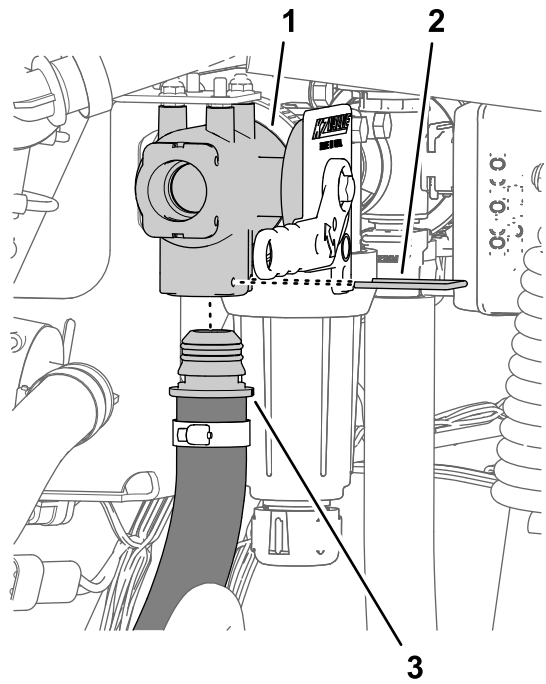


図 12

g204731

1. エダクタバルブ
2. リテーナ
3. 給液ホースアセンブリ

2. 90° フィッティングをポンプのT字フィッティングに固定する図 11ステップ1 圧力解放バルブと上側T字フィッティングの位置を変更する(ページ 5)で外したリテーナを使用する。
3. 圧力側ホースアセンブリのバーブ付きストレートフィッティングを、エダクタバルブの底部ポートに整列させて、ストレートフィッティングをバルブの奥まで完全に入れる図 12。

4. リテーナを使って、バーブ付きストレートフィッティングをエダクタバルブ図 10に固定する。

3

フレームを組み立てる

この作業に必要なパーツ

1	エダクタマウント
1	フランジロックナット5/16"
1	バックプレート・アセンブリ
1	右クレードルアーム
1	左クレードルアーム
2	ブッシュ
2	ピボットピン
2	ジャムナット $\frac{3}{8}$ "
2	ハンドル
2	ボルト $\frac{3}{8}$ x $1\frac{1}{4}$ "
2	固定ねじ
2	ヘアピン
2	平ワッシャ

タンクにサポートフレームを取り付ける

1. タンクのふたのストップを液剤タンクの後部固定ベルトのキャリッジボルト2本に固定しているフランジロックナット2本を外してタンクのふたのストップを取り外す [図 13](#)。

注 タンクのふたのストップとフランジナットは捨てないでください。

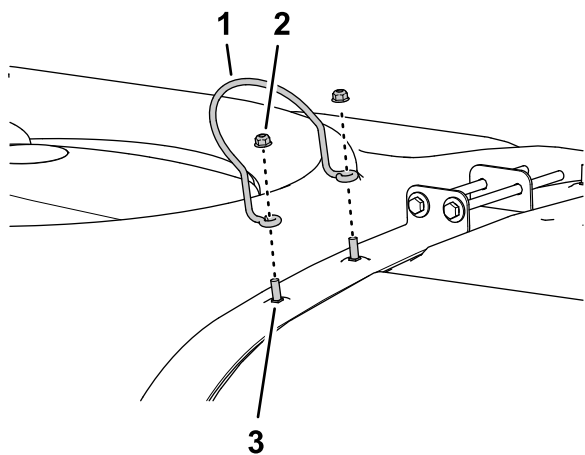


図 13

g204770

1. タンクのふたのストップ
2. フランジロックナット
3. キャリッジボルト

2. [図 14](#)のように、エダクタマウントのスロットを、タンク後部の固定ベルトの下側の2本のキャリッジボルトに合わせる。

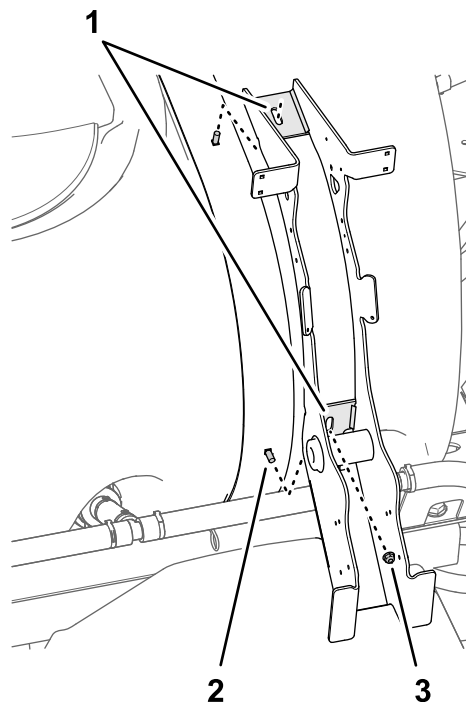


図 14

g204768

1. スロットエダクタマウント)
2. フランジロックナット5/16 インチ
3. キャリッジボルト

3. 下側キャリッジボルトにフランジロックナット5/16インチを仮止めする [図 14](#)。
4. ステップ1で外したタンクのふたのストップとフランジロックナット2個を、上側キャリッジボルト2本に取り付ける [図 15](#)。

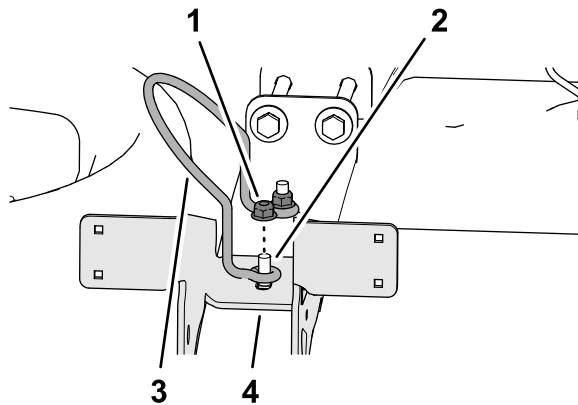


図 15

g204769

1. フランジロックナット5/16 インチ
2. キャリッジボルト
3. タンクのふたのストップ
4. エダクタマウント

5. フランジロックナット3個を、19.7825.42N·m
2.02.6kg.m = 175225in·lbにトルク締めする。

クレードルアームの準備を行う

- クレードルアームの上側の穴にピボットピンを通す 図 16。

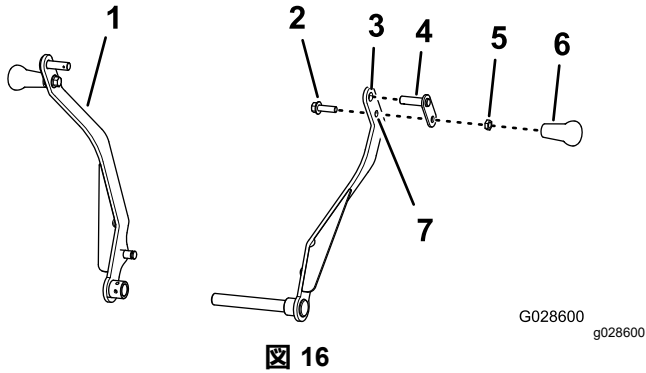


図 16

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. クレードルアーム左 | 5. ジャムナット 3/8" |
| 2. ボルト 3/8 x 1 1/4" | 6. ハンドル |
| 3. 上側の穴 クレードルアーム左 | 7. 下側の穴 クレードルアーム左 |
| 4. ピボットピン | |

- ボルト 3/8 x 1 1/4" のねじ山にロッキングコンパウンド取り外し可能タイプを塗りつける。
- ボルト 3/8 x 1 1/4" をクレードルアームの下側の穴から、ピボットピン 図 16 のリテーナに通し、ジャムナット 3/8" を取り付けて 15-17 N·m (1.5-1.8 kg·m = 11-13 ft·lb) にトルク締めする。
- ボルト 3/8 x 1 1/4" にハンドルを取り付け、ハンドルをジャムナットに締め付けてハンドルを手締める 図 16。
- もう一方のクレードルアームにも上記 1 - 4 の作業を行う 図 16。

クレードルアームをサポートフレームに組み付ける

- メインサポートフレームのピボットチューブのそれぞれの端部にフランジ付きブッシュ内径 3/4 インチを入れる 図 17。

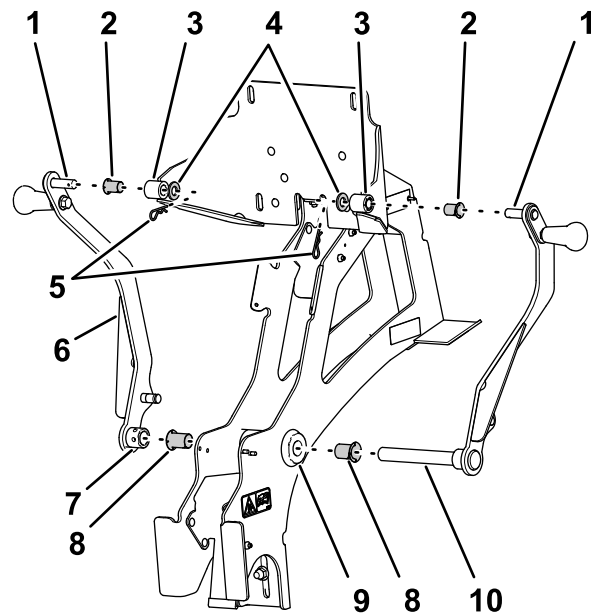


図 17

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. 上側ピボットピン 1/2 インチ | 6. クレードルアーム左 |
| 2. フランジブッシュ内径 1/2 インチ | 7. ハブ 左クレードルアーム |
| 3. ハブ バックプレート左と右 | 8. フランジブッシュ内径 3/4 インチ |
| 4. ワッシャ 1/2 インチ | 9. ピボットチューブ メインサポートフレーム |
| 5. ヘアピン | 10. 下側ピボットピン 3/4 インチ 右クレードルアーム |

- バックプレートの左右のハブにフランジ付きブッシュ内径 1/2 インチを入れる 図 17。
注 各ブッシュのフランジを、ハブの外側に合わせてください。
- 右クレードルアームの下側ピボットピンを、ピボットチューブの右側からピボットに通して組み付ける 図 17。
注 アームの上側ピボットピンを、バックプレートの右側ハブに整列させる。
- 右クレードルアームの上側ピボットピンを、バックプレートの右側ハブに組み付ける 図 17。
- 上側ピボットピンをバックプレートに固定する; ワッシャ 1/2 インチ とヘアピンを使用する 図 17。
- 左クレードルアームのハブを、ピボットチューブの左側フランジブッシュから突き出ている右クレードルアームの下側ピボットピンの端部に組み付ける 図 17。
注 アームの上側ピボットピンを、バックプレートの左側ハブに整列させる。
- 左クレードルアームの上側ピボットピンを、バックプレートの左側ハブに組み付ける 図 17。

8. 左クレードルアームの上側ピボットピンをバックプレートに固定するワッシャ 1/2 インチ とヘアピンを使用する 図 17。
9. 左アームの下側ヒンジ部に固定ねじ2本を取り付ける 図 18。

注 後でクレードル・システムの調整を行うので、固定ねじは本締めしないでください。

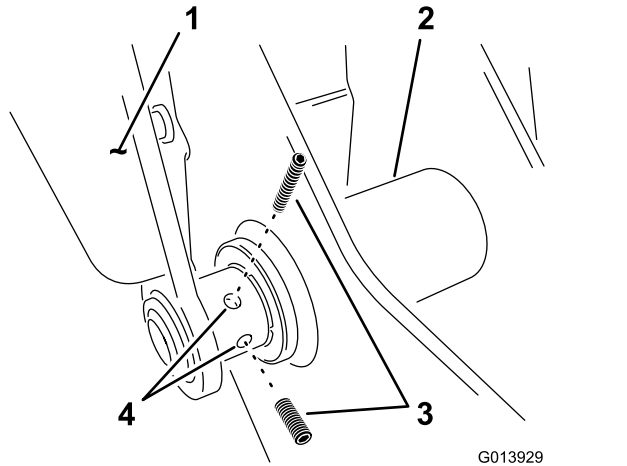


図 18

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. クレードルアーム左 | 3. 固定ねじ |
| 2. ピボットチューブ | 4. クレードルアームの穴 |

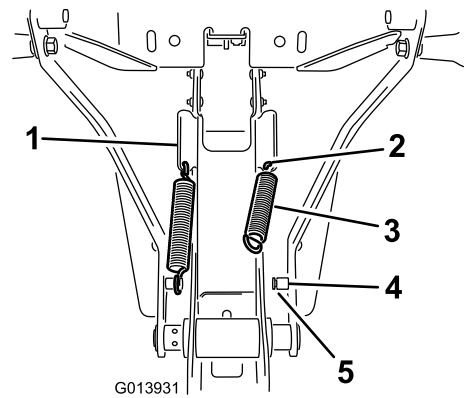


図 19

- | | |
|-----------|------|
| 1. アングルタブ | 4. 柱 |
| 2. タブの穴 | 5. 溝 |
| 3. スプリング | |

2. スプリングの一方の端を穴に引っ掛け、もう一方の端をスプリングポストに引っ掛ける 図 19。
3. スプリングの端部が柱の溝に適切にはまっていることを確認する 図 19。
4. 反対側にも、ステップ 13 の作業を行う。
5. 左アームの固定ねじを本締める。

トングの位置を調整する

クレードルアセンブリを上「移動」位置に動かしてトングの調整を行う。

1. ハンドル部を持ってアセンブリを持ち上げながら少しタンク側に倒す。
2. クロス・バーの下にトングを通す溶接されているタブがフレーム・アセンブリの上部にくるように。
3. アセンブリをタンク側に倒す。
4. プラスチック製のストップがスプリングのタブに接触していることを確認し、クレードルのバックプレート・アセンブリに力をかけて、スプリングタブを途中まで縮める 図 20

4

ラッチ関連部材を取り付ける

この作業に必要なパーツ

2	スプリング
---	-------

スプリングを取り付ける

1. フレームアセンブリの側面にあるアングルタブの下端についている穴にスプリングを取り付ける 図 19。

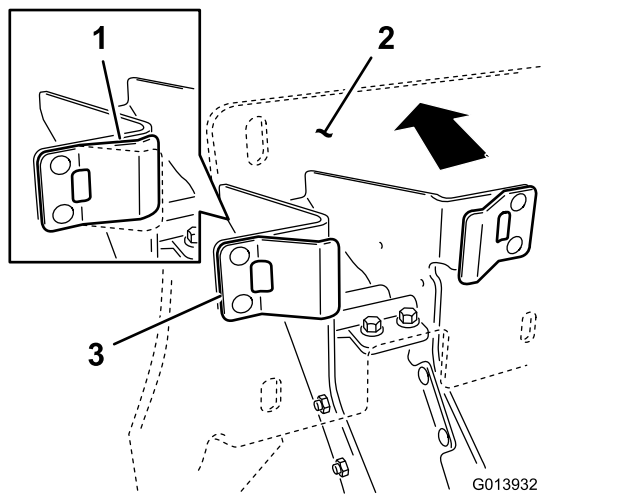


図 20

1. スプリングタブ押された状態
2. バックプレート
3. スプリングタブ

5. バックプレートへの圧力を保持したまま、トングを手前にスライドさせてトングプレートのリップをクロスバーに接触させる 図 21。

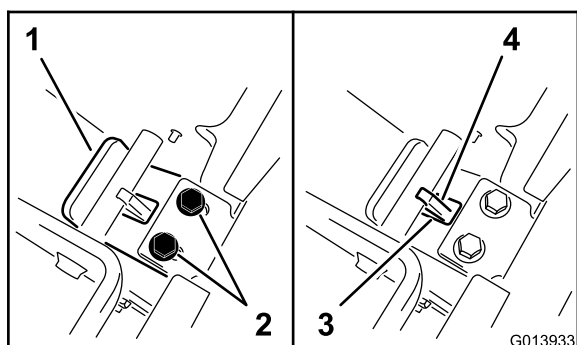


図 21

1. トングプレートのリップ
2. 締結具
3. プレートのスリット
4. 溶接されたタブ

6. トングの締結具を締めて固定し、固定が完了したらバックプレートにかけていた力を抜く。

注 クレードルにガタがあるかどうかをチェックしてください。フレーム・アセンブリにガタなく、適正に保持されていれば問題ありません。エダクタをロック位置に取り付けたあとでもういちこの調整を行ってロック位置の調整を行うことができます。

5

エダクタを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ハンドル
2	ソケットヘッドねじ #10-24 x 1/2"
1	ラッチポスト
1	スプリングクリップ
2	ボルト#10-24 x 1/2"
2	ロックナット(#10-24)
1	エダクタ
2	フランジヘッドボルト5/16 x 3/4"
2	フランジロックナット5/16"
1	ラッチハンドル
4	ボルト3/8 x 1"
4	フランジ付き鋸歯ナット3/8"
1	T字フィッティングとドレンバルブ
1	ガスケット
1	フランジクランプ

エダクタのハンドルを組み付ける

注 ラッチハンドルとラッチポストはエダクタのハンドルの左右どちらの側にでも取り付けられます。

1. エダクタのハンドルにラッチポストを組み付ける 図 22 ソケットヘッドねじ #10-24 x 1/2 インチ 2本を使用する。

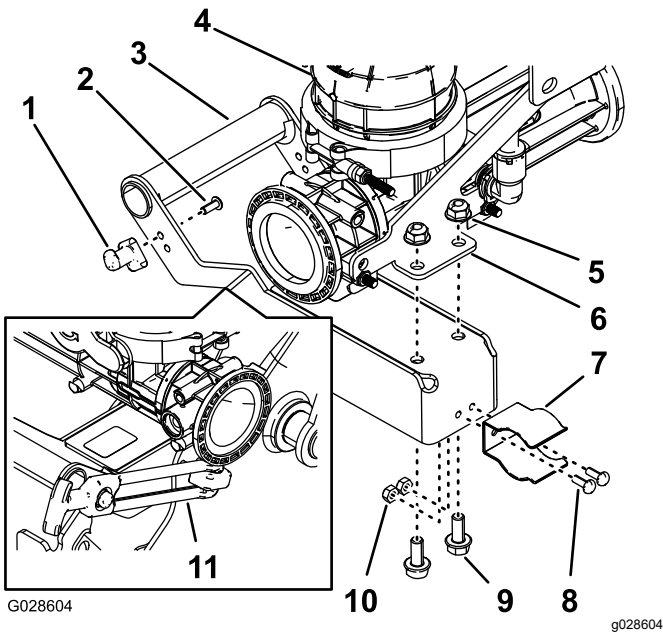


図 22

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. ラッチポスト | 7. スプリングクリップ |
| 2. ソケットヘッドねじ #10-24 x 1/2 インチ | 8. ボルト #10-24 x 1/2 インチ |
| 3. エダクタのハンドル | 9. フランジヘッドボルト 5/16 x 3/4 インチ |
| 4. エダクタアセンブリ | 10. ロックナット (#10-24) |
| 5. フランジロックナット | 11. ラッチハンドル |
| 6. 取り付けプレート エダクタ | |

2. ラッチハンドルにスプリングクリップを取り付ける
図 22 ボルト #10-24 x 1/2 インチ 2本とロックナット #10-24 2個を使用する。
3. ハンドルをエダクタの取り付けプレートに組み付ける
図 22 フランジヘッドボルト 5/16 x 3/4 インチ 2本とフランジロックナット 5/16 インチを使用する。
4. クレードルを下位置にセットする。

エダクタをスプレーヤに組み付ける

1. エダクタ取り付けプレートの穴を、クレードルサポートフレームのスロットに合わせる 図 23。

注 締結具は、エダクタを最初に移動位置にセットしたときに一緒に移動できる程度に仮止めとしておいてください。そうすれば、エダクタの移動と整列の調整ができます。

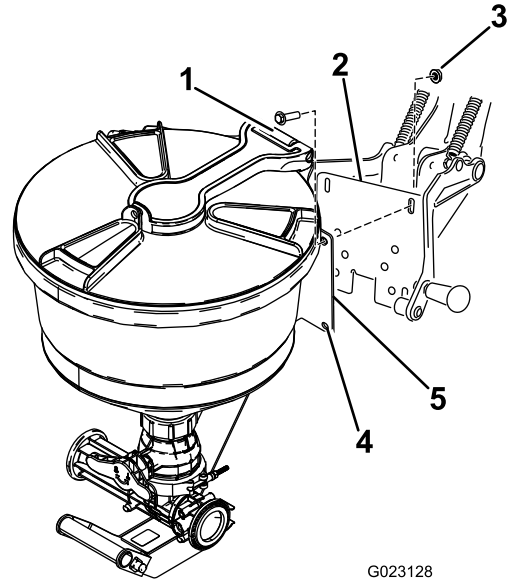


図 23

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. ボルト 3/8 x 1" | 4. エダクタアセンブリ取り付け穴 |
| 2. バックプレート | 5. エダクタアセンブリ取り付けプレート |
| 3. フランジ付き鋸歯ナット 3/8" | |

2. ボルト 4 本 3/8 x 1 インチとロックナット 3/8 インチで、エダクタを取り付ける。

注 この時点ではまだボルトの本締めを行わないでください。

3. 以下の要領で、クレードル・アセンブリに入っているエダクタを注意深く持ち上げて移動位置にセットする
 - A. ハンドル下部を持ってエダクタを持ち上げながら少しタンク側に倒す。
 - B. クロスバーの下にトングを通す溶接されているタブがフレーム・アセンブリの上部にくるように。
 - C. 次に、アセンブリをタンク側に動かしてスプリングクリップとフレーム下部の大きいピボットチューブとを整列させる。
 - D. そして 図 24 のように、スプリングクリップをピボットチューブにはめる。

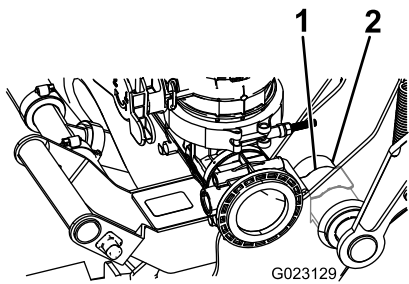


図 24

G023129

g023129

1. スプリングクリップ 2. ピボットチューブ

4. クレードルのバックプレート上のエダクタの高さを点検し、必要に応じて調整する。
5. エダクタをクレードルに固定する締結具の本締めを行う。

注 ボルト・ナットを3645 N·m/9.311.8 kg.m = 2733 ft-lbにトルク締めする。

6. 左側ピボットアームの固定ねじ2本を本締めする [図 18 クレードルアームをサポートフレームに組み付ける \(ページ 10\)](#) を参照。
7. タンク固定ベルト上のエダクタアセンブリの全体の位置を点検する。

注 エダクタは移動位置で真っ直ぐに立っていることが必要である。フレームアセンブリの下部のロックナットをゆるめてタンクに固定する。ロックナットは外さないでください。必要に応じて位置を調整し、ロックナットを締め付けてください。ベルトがタンクに確実に固定されていることを確認してください。

T字フィッティングとドレンバルブを組み付ける

1. ドレンバルブ用のT字フィッティングのフランジを、エダクタの前側フランジに合わせる [図 25](#)。

注 ドレンバルブのハンドルが外向きになるように取り付けてください。

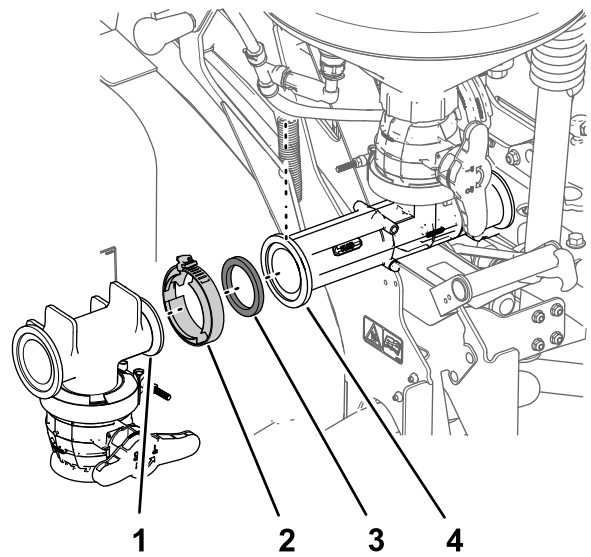


図 25

g205932

1. フランジドレンバルブのT字フィッティング 3. ガasket
2. フランジクランプ 4. 前側フランジ エダクタ

2. ガasketとフランジ付きクランプを使って、T字フィッティングをエダクタに組み付け、クランプを手締めする [図 25](#)。

6

前ホースを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	バルクヘッドフィッティング
1	シール
1	ロックリング
1	キャリッジボルト5/16" x 1"
1	エダクタホースアセンブリ
1	フランジロックナット5/16"
1	リテーナ
1	R クランプ5/16 インチ
1	ガasket
1	フランジクランプ

タンクに穴を開ける

1. メインタンクの蓋を開けてフィルタバスケットを取り外す [図 26](#)。

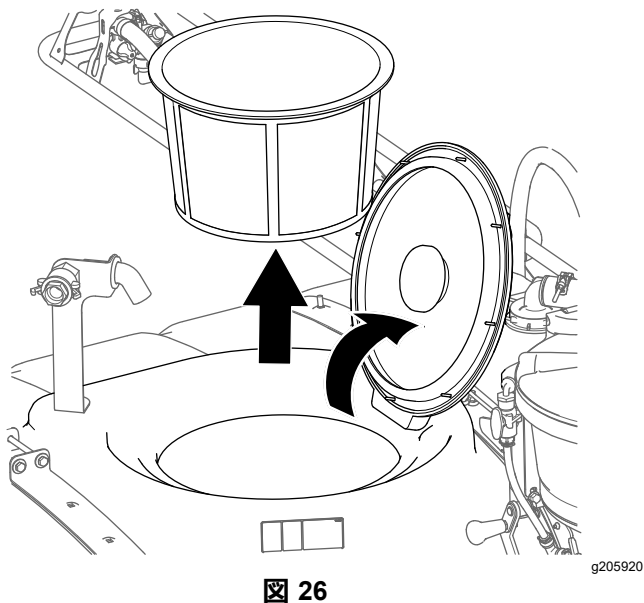


図 26

バルクヘッドを取り付ける

1. バルクヘッドのフィッティングにシールを取り付ける 図 28。

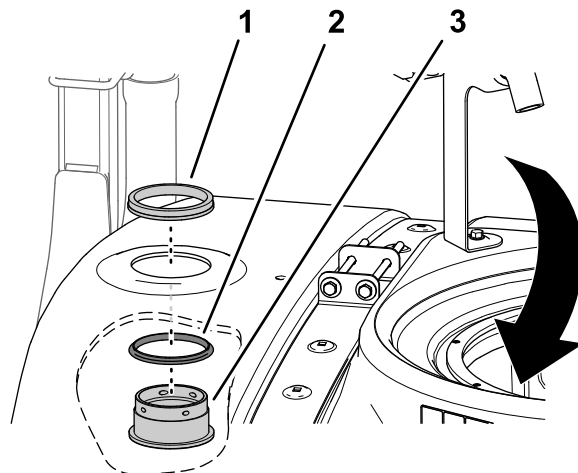


図 28

2. 図 27 に示されているタンク前部の位置を探し出す。

注 円の中心にあるドリルマークを探し出す。

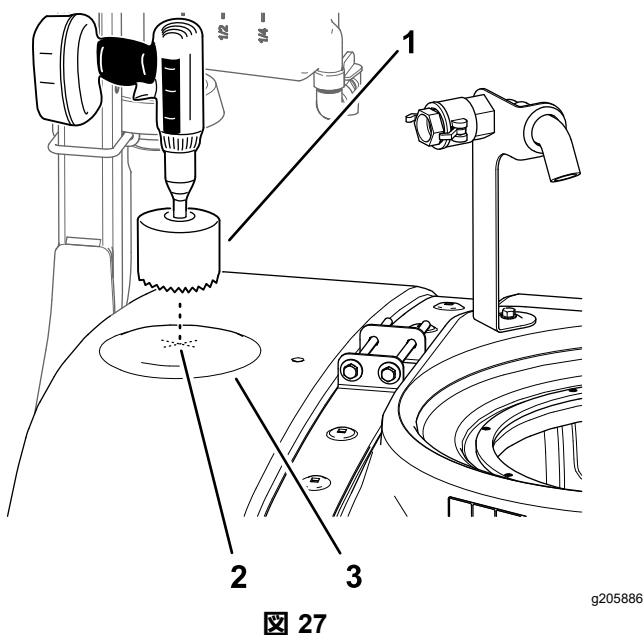


図 27

1. 円形ノコで穴を切る9cm
2. 円の中心にドリルで穴を開ける
3. 円鑄込パターン

3. 9 cm の円形ノコを使ってマークのところに穴を切る 図 27。

注 バルクヘッドをはめるために、穴を少しだけ拡大する必要があります。

4. 穴あけが終了したら、穴のエッジ部分のバリなどをきれいに除去し、また、穴を切る際にタンク内部に落ちたごみや樹脂の粉を完全に取り除く。

1. ロックリング
2. シール
3. バルクヘッドフィッティング

2. 先ほどタンクに穴を開ける (ページ 14) で作った穴を通して、バルクヘッドフィッティングとシールを、タンクの内側から取り付ける (図 28)。
3. ロックリングを使ってバルクヘッドをタンクに固定する 図 28。
4. フィルタバスケットを取り付け、液剤タンクのふたを閉じる。

エダクタホースアセンブリを取り付ける

1. 液剤タンクの前側固定ベルトを固定しているボルト3/8 x 7 インチ 2本、ワッシャ3/8 インチ4枚、ロックナット 3/8 インチ2個を取り外す [図 29](#)。

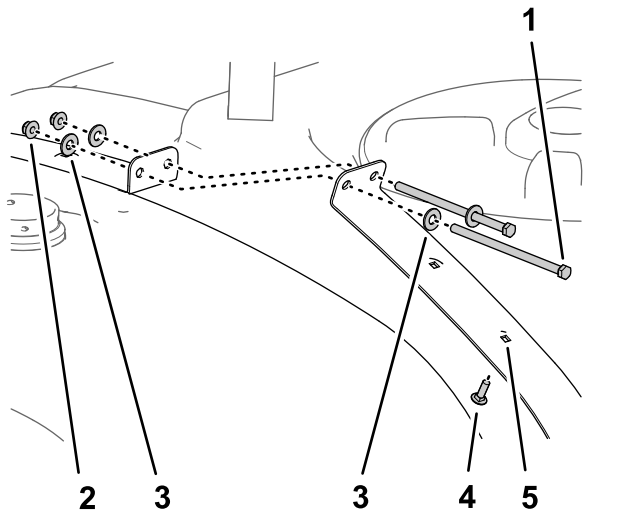


図 29

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. ボルト3/8 x 7 インチ | 4. キャリッジボルト5/16" x 1" |
| 2. フランジロックナット3/8" | 5. 二つ目の穴固定ベルト液剤タンク |
| 3. ワッシャ3/8" | |

2. [図 29](#)に示すように、キャリッジボルト (5/16 x 1 インチ)を固定ベルトの2番目の穴に入れる。
3. 前側の固定ベルトを組み合わせるステップ 1で外したボルト2本、ワッシャ4枚、ロックナット2個を使用し、ボルト・ナットは手締めする [図 29](#)。
4. エダクタホースアセンブリにRクランプを通す [図 30](#)。

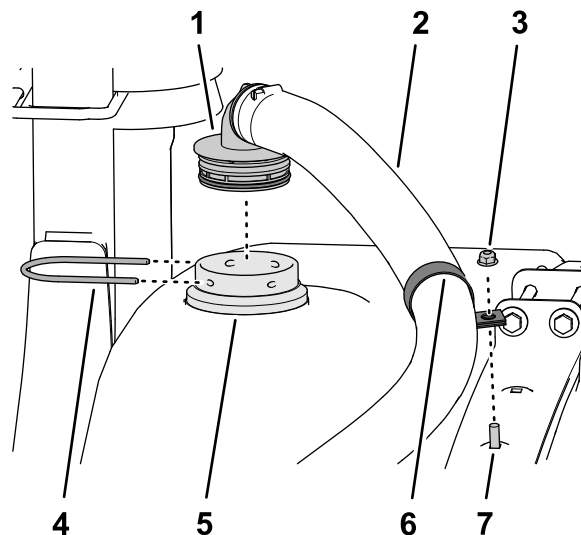


図 30

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. バーブ付き 90°フィッティング | 5. バルクヘッドフィッティング |
| 2. エダクタホースアセンブリ | 6. Rクランプ5/16 インチ |
| 3. フランジロックナット5/16" | 7. キャリッジボルト5/16" x 1" |
| 4. リテーナ | |

5. エダクタホースアセンブリのバーブ付き 90°フィッティングを、バルクヘッドのフィッティングに取り付け、バーブ付きフィッティングをバルクヘッドのフィッティングにリテーナで固定する [図 30](#)。
6. キャリッジボルトにRクランプを仮止めし、取り付け、フランジナット5/16 インチを使用してクランプを固定する [図 30](#)。

注 フランジナットは、ホースアセンブリの他端の取り付けが終了した後に締め付けます。

7. エダクタホースアセンブリのバーブ付きストレートフィッティングを、エダクタ用のT字フィッティングのフランジに組み付け、クランプを手締めする [図 31](#)。

7

給液ホースを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	エダクタの給液ホース
1	フランジクランプ
1	ガスケット
1	リテーナ

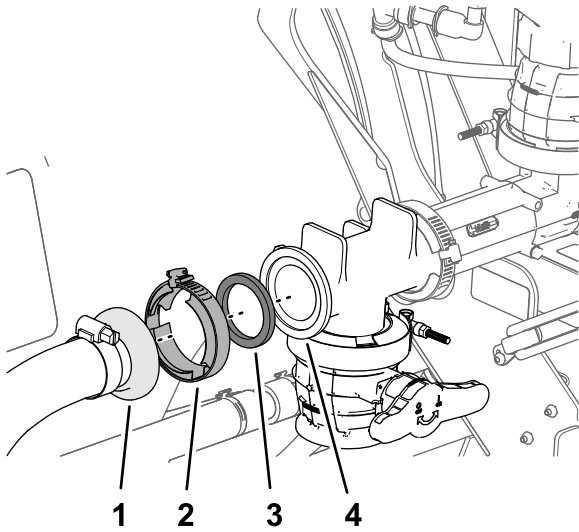


図 31

g205926

1. バーブ付きストレートフィッティング (エダクタホースアセンブリ)
2. フランジクランプ
3. ガスケット
4. フランジエダクタアセンブリのT字フィッティング

8. エダクタのハンドルを何度か上下動作させて、エダクタが自由に動くことを確認する。

注 必要に応じ、エダクタホースに合わせてRクランプの位置を調整する 図 30。

9. クランプを固定しているフランジロックナット 5/16 インチを 19.7825.42N·m 2.02.6kg.m = 175225in-lb にトルク締めする。

手順

1. エダクタの給液ホースのバーブ付きストレートフィッティングを、ガスケットおよびフランジクランプと共にフランジに組み付ける 図 32。

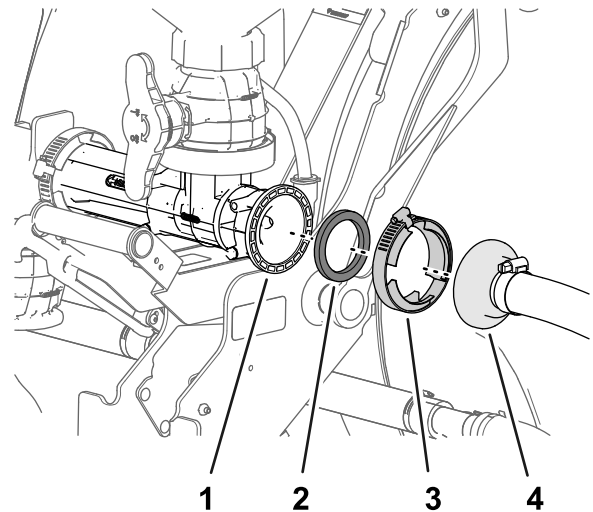


図 32

g205927

1. フランジ エダクタ
2. ガスケット
3. フランジクランプ
4. バーブ付きストレートフィッティング エダクタ給水ホース

2. エダクタの給液ホースの他端を、ポンプを越えてエダクタ停止バルブへと導く。
3. エダクタの給液ホースのバーブ付き90°フィッティングを、エダクタ停止バルブの空いているポートに組み付ける (図 33)。

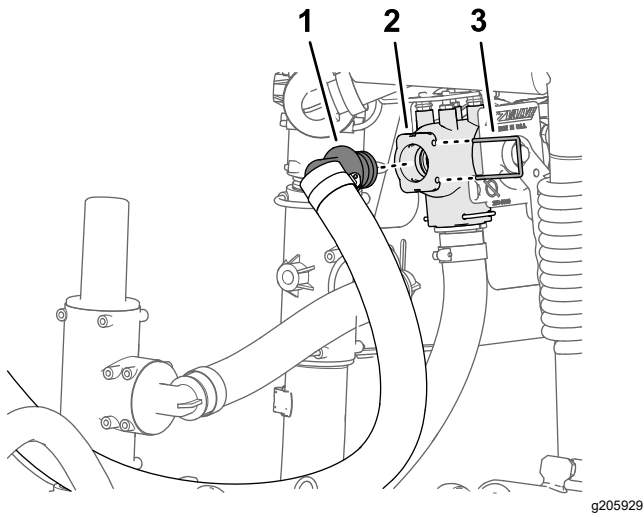


図 33

1. バーブ付き90°フィッティング エダクタの給液ホース
 2. エダクタ停止バルブ
 3. リテーナ
-
4. リテーナを使って、バーブ付きフィッティングを停止バルブに固定する 図 33。
 5. エダクタ給液ホースをエダクタに固定しているフランジクランプを締め付ける。

8

取り付けを完了する

この作業に必要なパーツ

1	吸い込みランスとホース オプション
---	-------------------

手順

注 吸い込みランスとホースはオプションです。詳細については弊社代理店におたずねください。

吸い込みランスとホースは後のために保管する。薬液プレミックス・キットの使用に関する書類を読み、読後に保管する。

運転操作

▲ 注意

農薬は人体に危険を及ぼす恐れがある。

- 農薬を使う前に、農薬容器に貼ってあるラベルをよく読み、メーカーの指示を全て守って使用する。
- スプレーを皮膚に付けない。万一付着した場合には真水と洗剤で十分に洗い落とす。
- 作業にあたっては保護ゴーグルなど、メーカーが指定する安全対策を必ず実行する。

制御装置

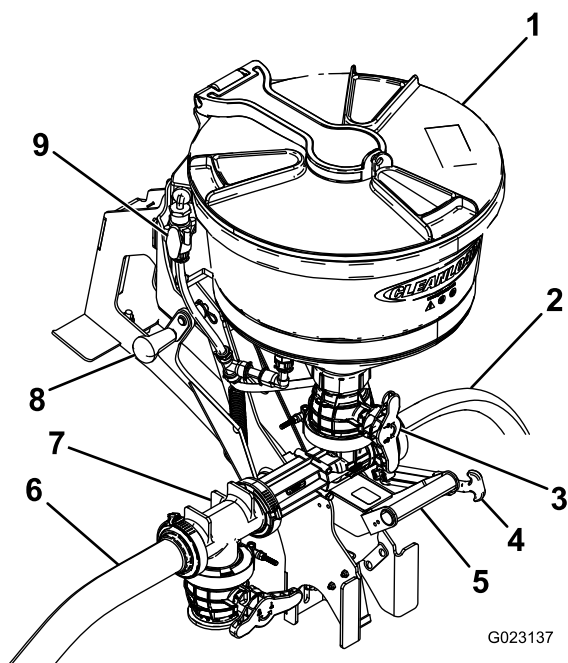


図 34

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. 蓋 | 6. タンクホース |
| 2. 給液ホース | 7. T字バルブ |
| 3. ホッパーのバルブ | 8. 上ハンドル |
| 4. 移動走行用ストラップ | 9. フラッシュバルブ |
| 5. 下ハンドル | |

蓋

蓋は左に回すと開きます。閉めるときは、蓋を完全に閉じてから右に回してロックしてください。移動位置に持ち上げる時には蓋は閉じてロックおかなければいけません。

ハンドルおよび移動走行用ストラップ

通常は移動走行位置に格納しておき、エダクタを上下に移動するときにはこれらのハンドルを使います(図 34)。

ホッパーのバルブ

エダクタに入れた薬品を、ホースを通じてメインタンクに送る時にはこのバルブを使用します。

ボトルリンス薬剤容器すすぎ

エダクタタンクの内部に薬剤容器のすすぎ口(図 35)が設けてあります。薬剤容器が空になったら、容器をさかさまにし、容器のフチの部分を使ってリンスの口を押し、容器の内部を洗ってください。ボトルリンスは、液剤タンクの液で洗浄されます。空の薬剤容器は、ボトルリンスの吐出口から噴出する液剤タンクからの薬液で洗浄されます。

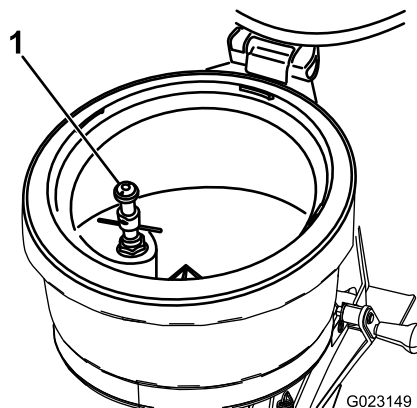


図 35

1. ボトルリンス薬剤容器すすぎ

フラッシュバルブ

フラッシュバルブ(図 34)は、エダクタタンクの内部をすすぎ洗いのためのバルブです。フラッシュバルブから出てくる洗浄液は、液剤タンクの液です。フラッシュバルブのハンドルを右に 90° 回すと洗浄、左に 90° 回すと洗浄停止となります。

エダクタの上昇と下降

エダクタを下降させるには

1. エジェクターハンドルを握り、ラッチポストからラッチハンドルを引き抜きます。

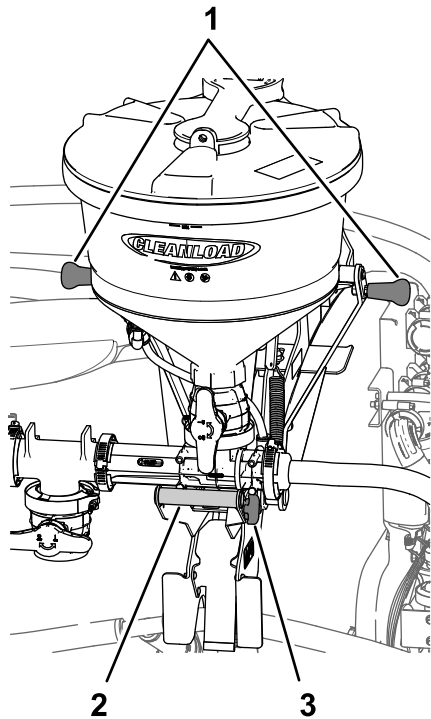


図 36

G029077

g029077

1. ハンドル クレードルの上部
2. エダクタのハンドル
3. ラッチハンドル

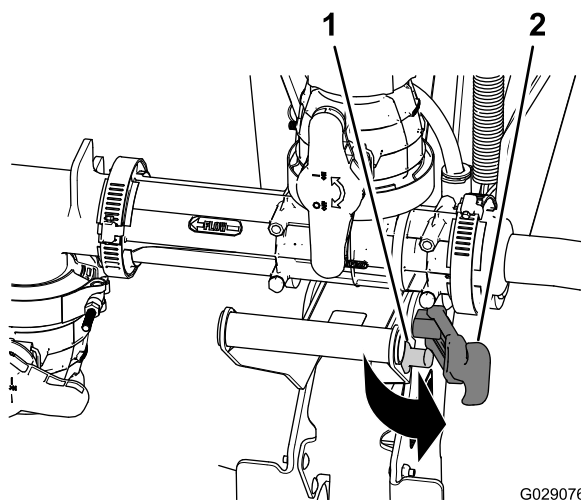


図 37

G029076

g029076

1. ラッチポスト
2. ラッチハンドル

2. クレードル上部のハンドルとエジェクターハンドルを握り、スプリングクリップがピボットチューブから外れるまでエジェクターハンドルを引き出します。

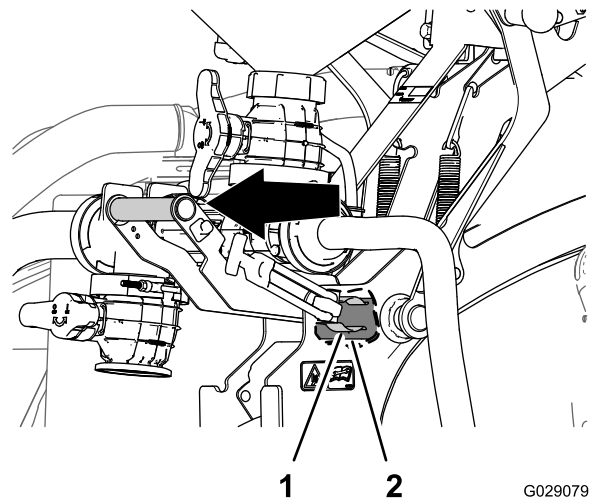


図 38

G029079

g029079

1. スプリングクリップ
2. ピボットチューブ

3. エジェクターハンドルを外側かつ下方向に引いて、バックプレートの内側にあるラッチのフックがメインサポートフレームアセンブリのラッチロッドから離れるようにしてください。

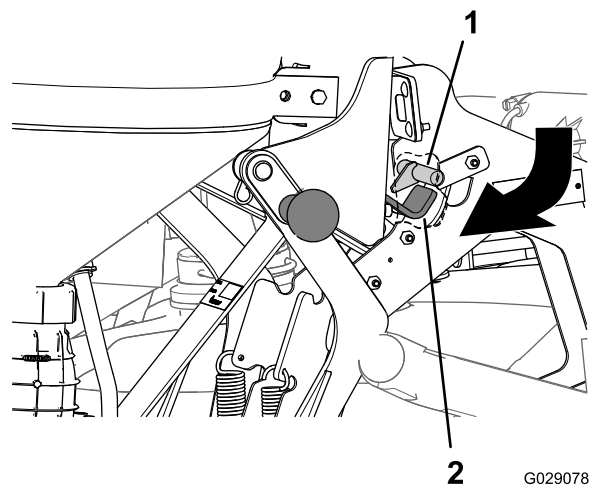


図 39

G029078

g029078

1. ラッチロッド メインサポート
2. ラッチバックプレート フレーム

4. エジェクターのハンドルを少し外側に保持しながら、エジェクターを完全に下げてください。

注 エダクタの底部を外側に倒してラッチのフックをメインサポートフレームの底部のスプリングプレートに合わせてください。

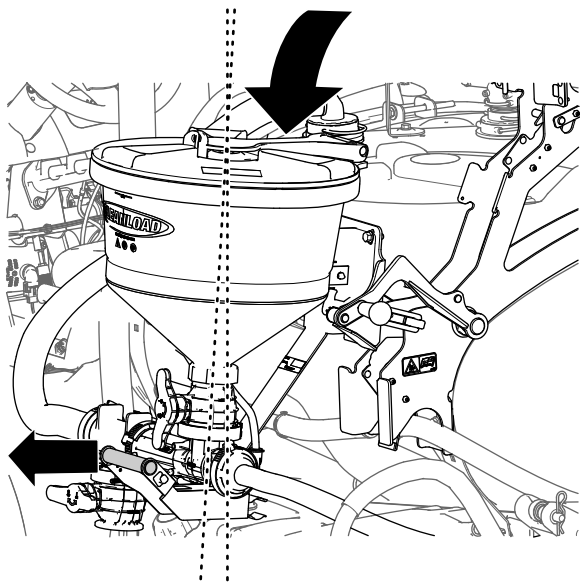


図 40

g205963

- バックプレートのラッチがスプリングプレートの下にある場合は、ラッチのフック部分がスプリングプレートの後ろに来るように、エジェクターハンドルを内側に回転させます。

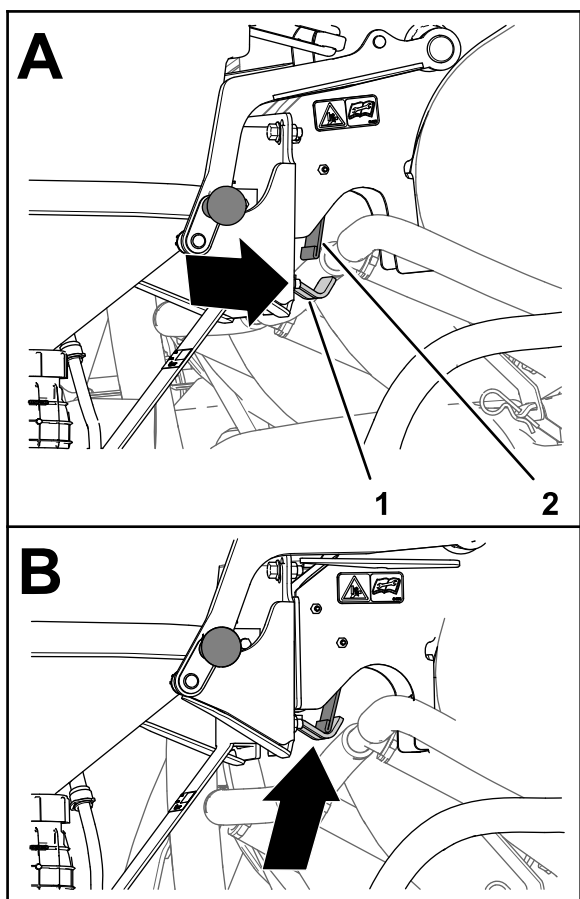


図 41

g205964

- ラッチのフック
- スプリングプレート

エダクタを上昇させるには

- エダクタのハンドルの他にエダクタのクレードル上部のハンドルも握り、ハンドルを外側に引き出すようにしてラッチのフック部分をスプリングプレートの外側に合わせる 図 38 と 図 41。
- エダクタのハンドルを少しずつ外側へ引きながらエダクタを持ち上げる 図 40。

注 エダクタの上部を機体内側に向けて倒すようにして、バックプレートの車体内側にあるラッチをメインサポートフレームアセンブリのラッチロッドに合わせる。

- クレードル上部のハンドルを押し込んで、ラッチのフック部分をメインサポートフレームのラッチロッドの後ろに合わせる 図 39。
- エダクタのハンドルを押し込んでフックをラッチロッドまで上げ、スプリングクリップがピボットチューブの周囲に完全に収まるようにする 図 38。
- ラッチハンドルを引いてラッチポストに止める 図 37。

車両を停車させた状態で薬剤を散布するときターフを焼かないための注意事項

重要 スプレーヤを停止させた状態で作業中に、エンジンやラジエター、マフラーなどからの熱が原因でターフを傷めてしまう可能性があります。停止モードとは、走行しないで攪拌だけを行う、ハンドガンで手撒きする、歩行型ブームで手撒きするなどを言います。

これらの場合には以下の注意を守ってください

- 酷暑の時期や極めて乾燥している時期にはターフが大きなストレスを受けているので、ターフ上に停止して散布するのは避ける。
- 停止モードで作業する時には、ターフの上に停止しないようにする。可能な限り、カートパスなどに停車する。
- ターフ上に停車する時は、**停車時間をできるだけ短く**する。ターフへの害は温度と時間の両方が影響することを忘れないようにする。
- エンジンの**回転速度をできるだけ下げ**、必要最小限の水圧と水量で作業する。これにより、発熱をできるだけ小さくし、また冷却ファンからの熱風をゆるやかにすることができる。
- 停止モードで作業するときには、エンジンの熱が**できるだけ上に逃げるようにエンジンガード運転席アセンブリを倒し**、車体上部に通風領域を確保する。運転席の倒し方については **オペレーターズマニュアル** を参照のこと。

注 熱の害が心配される場合には、車両の下に防熱ブランケットを敷いてください。ターフスプレーヤ用防熱ブランケットは、トロの代理店で入手することができます。

エダクタの使い方

ここで説明する操作手順は、以下の準備ができていることを前提としております。スプレーヤのエンジンが作動しており、ポンプが作動して希望する水圧を発生させており、スロットルが中間位置にセットされている。

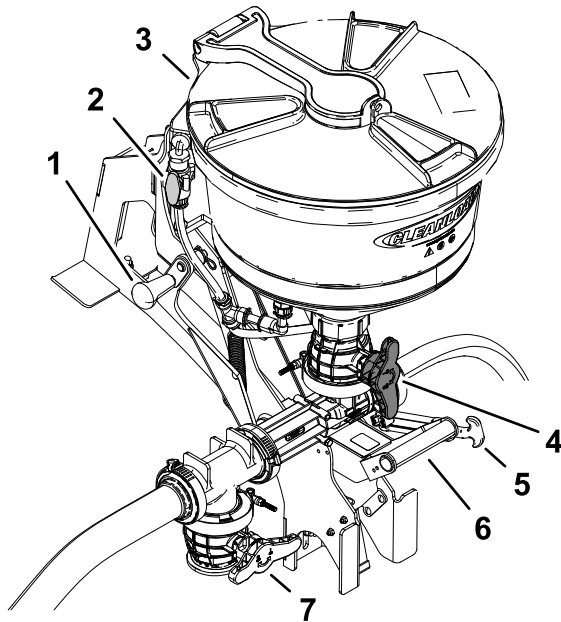


図 42

g206995

1. 上ハンドル
2. フラッシュバルブのノブ
3. ホッパーバルブのノブ赤
4. 蓋
5. 移動走行用ストラップ
6. 下ハンドル
7. T字バルブ

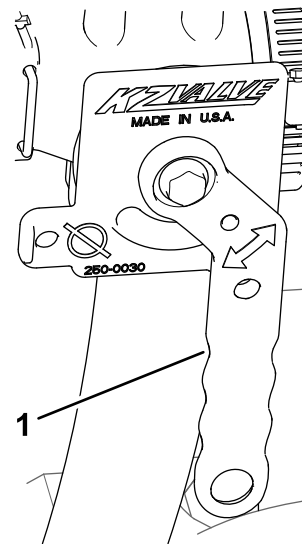


図 43

g207098

1. ハンドルエダクタ停止バルブ

5. ホッパー下部についているホッパーバルブ赤いノブを開く図 42。
6. カバーを左に回してふたのロックを解除し、ふたを開ける。

エダクタを使用する

注 エダクタの始動前に、エダクタのホッパーバルブとフラッシュバルブを閉じておいてください。

1. 昇降ハンドルを使ってエダクタを下げる図 42。
2. ふたを開けて、内部に異物流れを妨げる可能性のあるものや薬剤を汚染する可能性のあるものがないか調べる図 42。
3. ふたを閉じ、カバーを右に回してふたをロックする。
4. エダクタ停止バルブについているハンドルを回して開く図 43。

エダクタ内にタンクからの液が流入する。

ホッパーに薬剤原液または粉剤を投入する

1. エダクタ停止バルブを開く。
2. ホッパーバルブを開く [図 42](#)。
3. 必要量の薬剤をホッパーに投入する。

注 薬剤原液や粉剤をホッパーからこぼさないように注意する。

4. 必要に応じ、空になった薬剤容器を以下の手順で洗う
 - A. 容器をさかさまにして容器の口のヘリの部分でバルブを押す [図 35 ボトルリンス薬剤容器すすぎ \(ページ 19\)](#)を参照。
ボトルリンスの吐出口から液が噴出して容器内部が洗浄される。
 - B. 容器を持ち上げるとバルブが閉じて洗浄が終わる。
5. 以下の要領でエダクタのホッパーの洗浄を行う
 - A. ホッパーのふたを閉じ、カバーを右に回してふたをロックする。
 - B. フラッシュバルブを開いてエダクタ内部を20秒間すすぎ洗いする [図 42](#)。
 - C. フラッシュバルブを閉じる [図 42](#)。
 - D. ふたを開け、きれいに洗浄されているか点検する。
ステップAをBを繰り返して確認を行う。
6. エダクタを上げ、移動走行用ストラップで支える [図 42](#)。
7. エダクタ停止バルブとホッパーバルブを閉じる [図 42](#)。

吸い込み棒オプションを使用しての薬剤の投入

注 棒の吸い込み能力はエダクタの圧力および流量によって変わります。圧力を 10.34bar 150 PSIを超えない程度に設定するとスムーズです。

1. 吸い込み棒の本体部を、ホッパーのドレン部のOリングシールのところまでエダクタに入れる。

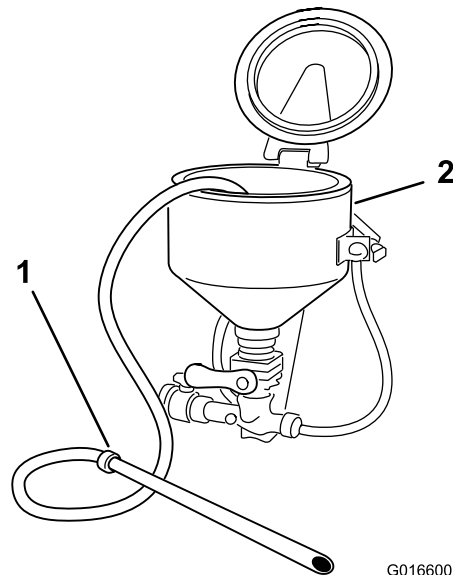


図 44

1. 吸い込み棒
 2. エダクタ
2. 棒の開放側を使って薬剤の袋や容器に穴を開けて吸い込みやすくする。
 3. 吸い込みが終わったら、棒の先端部をバケツに入ったきれいな水に入れて洗浄する。
 4. 棒本体部をエダクタから外し、棒内部に残っている薬剤をホッパー内部に出す。
 5. ホッパーバルブ赤いハンドルを閉じる。

エダクタの停止手順

1. 全部のバルブを閉じる。
注 最初にホッパーバルブを閉じる。
2. 残っている薬剤をすべて除去する。
3. ホッパーのふたを閉じ、カバーを右に回してふたをロックする [図 42](#)。
4. 攪拌バルブを全開位置に戻す。
5. エダクタ停止バルブを閉じる [図 43 エダクタを使用する \(ページ 22\)](#)を参照。
6. エダクタを移動走行位置に戻し、移動走行用ストラップで固定する [図 42](#)。

故障探究

問題	考えられる原因	対策
エダクタの吸い込みが悪い	<ol style="list-style-type: none">1. フローや水圧がエダクタに十分供給されていない2. 出口/入り口ホースが詰まっている3. エダクタの出口部分にエルボ付きのフィッティングなど流れを阻害するものがある	<ol style="list-style-type: none">1. ポンプ速度を上げる攪拌絞りバルブを閉じる側に回す2. 分解して異物を除去する3. 柔らかいホース以外は使わず、ホースは振りながら使用する
すすぎや洗浄ができない	<ol style="list-style-type: none">1. ボトル洗浄ノズルが詰まっている2. ボトル洗浄用のT字ノズルが詰まっている	<ol style="list-style-type: none">1. ノズルの回転部を分解して下側のバルブアセンブリから外す水洗いして目詰まりを除去する2. ティーノズルを外して水洗いで詰まりを除去する
フィッティング部分で漏れる	<ol style="list-style-type: none">1. フィッティングが破損している2. ねじ山シールが劣化している	<ol style="list-style-type: none">1. フィッティングの割れを点検し、必要に応じて交換する2. ねじ山部分から漏水する場合は、分解して接合部にシールを巻く。